

静岡県漁業協同組合連合会
1135 静岡市追手町 9-18
17.3.18 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成16年度卒業式を挙行 第35期生15名が海の男に - 県立漁業高等学園 -

県立漁業高等学園(鈴木達夫園長)では、去る3月10日平成16年度(第35期生)卒業式を挙行し、本県漁業の将来を担う海の若人15名(航海課7名・機関課8名)を漁業の第一線に送り出しました。

式典では、卒業生全員に卒業証書と記念品が授与され、鈴木園長の式辞に続いて、来賓として戸本焼津市長、西川同学園後援会長(本会会長)より夫々祝辞が述べられました。引き続き、卒業生を代表して高 俊浩君(大阪府)が「強さとたくましさだけでなく、やさしい心を持った海の男となり、良き漁業後継者になりたい」と答辞を述べ閉会しました。

また、1年間の目標としてきた海技従事者国家試験については、4級海技士試験(筆記)に6名、5級海技士試験(筆記)に7名が、見事合格しました。

なお、卒業生は次のとおり各々県内外漁船への就職(乗船)が決定しています。

遠洋かつお漁業:4名 近海かつお漁業:2名 遠洋まぐろ漁業:1名 定置網漁業:2名
小型底曳網漁業1名 近海巻網漁業:2名 近海さば漁業:3名

2. 第48回県漁協女性部大会開催 - JF静岡女性連 -

県漁協女性部連合会(山本節子会長)では、去る3月11日静岡市・県男女共同参画センター(あざれあ)において、県下漁協女性部員約260名参加のもと、第48回県漁協女性部大会を開催しました。この大会は、県下漁協女性部が一堂に会し、女性部組織の今後の進め方について研鑽し、もって明るく豊かな漁村づくりを目指すことを目的として、毎年開催しているものです。

当日は、山本会長の挨拶に続いて、来賓として本会西川会長、県水産振興室大石室長、県信漁連星川会長より夫々祝辞が述べられ、続いてうみ・ひと・くらしフォーラムのメンバーでもあり、水産経営技術研究所研究員の三木奈都子氏より「漁村を活性化させる女性活動の展開について」と題し、女性部活動を次代の部員に継続させるための運営や、地域から協力を得られる漁協女性部活動の体制など他県での事例を交えながら記念講演が行なわれました。

その後、JFのパートナー組織として、豊かで活力ある「浜」づくりに向けて、一致協力して活動を展開する旨の大会宣言が述べられ満場一致で採択されました。

午後からは、3月7、8日の両日、東京において開催された第10回全国青年・女性漁業者交流大会で全漁連会長賞を受賞した由比港漁協女性部の活動発表が行なわれた後、毎年恒例となっている女性部員によるアトラクションが15演目披露され、楽しい一時を過ごすとともに部員相互の親睦を深めました。

3. シラス漁海況予察研修会開催

県水産試験場、県しらす船曳網漁業組合主催による平成17年度シラス漁海況予察研修

会が、去る3月9日、10日の両日、福田町、浜名、静岡、吉田町の4漁協において開催され、席上、県水産試験場より次のとおりシラス漁海況予測が発表されました。

海況(3~6月の予測):黒潮は、期間を通してA型流路(大蛇行)で推移するが、6月後半には蛇行が東偏すると予測されます。また、沿岸水温は、A型流路が持続することにより、駿河湾内への暖水波及や遠州灘沖の内側反流が強まり沿岸域は断続的に暖水で覆われるため、遠州灘から駿河湾にかけて、「やや高め」~「かなり高め」で推移すると予測します。

シラス概況:近年の親のマイワシ資源の状況から、マシラスの漁は期待できないことから、対象をカタクチイワシ漁に限定して次のとおり予測されます。

初漁期(1日1ヵ統当り水揚量200^{kg}以上)は5月下旬。

春漁(3~6月)の水揚量は、前年(960^ト)を上回り、平年(2,221^ト)を大きく下回る。

夏・秋漁(7~10月)の水揚量は前年(1,342^ト)を大きく上回り、平年(平年3,000^ト)を下回る。

年間の総水揚量は、前年(2,464^ト)を大きく上回り、平年(5,565^ト)を大きく下回る。

4. 2004年度第4回石油部会開催される

JF全漁連では去る3月10日、2004年度石油部会を開催し、最近の石油情勢、2005年度事業計画大綱(案)を報告・協議しました。

国際石油情勢:OPECは1月30日、現行の生産枠(27,000千バレル/日)を据え置くことで合意し、加盟国に対し生産枠の厳守を再度要請しました。目標価格(現行22~28^{ドル}/バレル)の上限を超えて1年以上経過し、そのレベルが非現実的との認識から、一時的に凍結するとの決定を行ないました。

原油市況は、イラク議会選挙前の政情不安定などが影響し、1月下旬には49^{ドル}/バレル前後まで上昇し、2月に入り、米国北東部への寒波到来により米国のヒーティングオイル価格が上昇したことや、OPECの減産観測などから再度高騰し、3月上旬現在54^{ドル}/バレル台で推移しています。

製品市況は、中国の旺盛な需要などから、1月下旬には52^{ドル}/バレル台に高騰し、その後も原油価格の高騰が続いていることから、3月上旬現在62^{ドル}/バレル台まで暴騰し、原油価格の値上がり幅以上の水準で推移しています。

国内石油情勢:12月までは暖冬の影響により製品のスポット市況は軟化傾向で推移していましたが、1月以降強含みとなり、2月に入ると暖房需要の増加に加え、火力発電所向けの低硫黄C重油需要の増大などを理由に、元売各社は中間留分の需要調整を図るべく出荷調整を行っており、スポット市況は堅調に推移しています。

こうした状況の中、JF全漁連としては輸入製品の大幅なコストアップ並びに引取元売から強い値上げ要請を受け、コストアップ分を吸収するためには限界に達しているなどの値上げの背景を説明の上、供給価格改定の実現を上程した結果、3月17日出荷分より値上げが行なわれました。

5. 諸会議日程(3月22日(火)~4月4日(月)) - 既報分省略 -
3月28日(月) 県漁連 = 協同組合間提携推進協議会第13回シンポジウム(静岡ブケ東海)